

リアルな人生ゲームで、商店街を元気に ―ゲームの専用通貨を商品券に交換、買い物も―



NPO法人出雲まちあそび研究所副理事長
出雲市産業振興課主任

・田中 寛

ルールレットを回して商店街めぐり

ゲームの舞台は、島根県出雲市の平田地域（旧平田市）の中心地に位置する平田本町商店街です。平田本町商店街は、皆さまがご存じの出雲大社から東に車で20分ほどの距離にあり、県庁所在地で

ある松江市との中間に位置しています。私の家からは、自転車でも10分ほどの距離で、中高校生の頃（約25年前）は、商店街に、レコード店、衣料店や飲食店など、様々なお店があり、友達とよく買い物をしていました。その頃は、イベントもたくさんあり、賑わっていたことを記憶しています。

ところが、いつの頃からか、人通りも少なく、俗に言う「シャッター通り商店街」へと変わっていききました。

そのような中、2013年から、「まちあそび人生ゲーム」と銘打った街歩きイベントを始めました。イベントは、商店街を舞台に、ルールレットの出た目に従って店を巡り、専用通貨を店

でやりとりして、ゴール時の所持金を競うものです。まさに、国民的人気ボードゲーム「人生ゲーム」のリアル版です。ゴール後は、専用通貨を商品券と交換し、実際に買い物もできます。

きっかけは、商工会議所職員の嘆き

「イベントをしても、お客さんは、1カ所に集まり、店主は自分の店を閉めて、スタッフをしている。お客さんがたくさん来ても、商売につながっていない」という商工会議所に勤めている友人の嘆きを聞きました。

そんな時、20代～50代の男女がいる場で、「人生ゲーム」が話題になりました。「ゲーム盤って、商店街の店の配置に似ている」「商店街を使ってみんなが知っている人生ゲームのリアル版をやったら、お客さんが商店街を楽しみながら歩いてくれるのではないか」とひらめきました。

そこで、イベントをやってみようと思い、地元の平田本町商店街に企画を持ち込みました。しかし、商店街の理事長を含め理事の半分は「人生ゲーム」を知らない方々で、ボードゲームを買って、理事全員でやってみるところから始めました。

ボードゲームの世界を現実の世界に取り入れるのには大変苦労しました。参加者の動きをシミュレーションしながら、ルールを1つ1つ構築し、必要なアイテムを制作し、2013年7月に第1回を開催する運びとなりました。

「偶然の出会い」と「顔が見える関係」



「まちあそび人生ゲーム」で使用するアイテム
【上段左】ゲーム用マップ（商店街の地図）【上段右】給料袋
【下段左】職業カード【下段中】ルールレット【下段右】専用通貨



ゲームのスタートを待つ行列（平田本町商店街駐車場）



参加者は、ゲームを楽しみながら平田本町通りを散策します！



店内の様子「メガネの調子はどうですか？」と伺う店員

最大の特長は、ルーレットが行き先（店舗）を勝手に決めることです。「偶然の出会い」とそこから生まれる「顔の見える関係」です。

消費者から見ると、個店は、非常に入りづらいところがあります。しかし、このイベントは、気軽に入ってもらいやすい機会をつくります。1度入ったことのある店舗は、とても入りやすくなります。

参加者アンケートでも、「気兼ねなく、来店できて、店主とコミュニケーションがとれた」「長年、この地域に住んでいるが、初めて入った店舗もあった。また来たい」などのご意見を多数いただき、その感想は、ほぼ100%が「楽しかった」と答えています。

参加者数は、初回と2回目は500人程度でしたが、広報や口コミの効果もあり、3回目は1600人、4回目、5回目は2000人を超える参加がありました。その約7割が、小学生以下と保護者というのも、特筆すべき点です。

一方、個店は、当初どのように来店者に対応して、個店の魅力を伝えればよいのかわからないところもありました。しかし、回数を重ねるたびに様々な工夫が生まれました。来店者とのコミュニケーションはもちろん、店舗内の商品の見せ方やポップの工夫、割引券や試供品などのサービスです。

そこから、来店者と顔の見える関係が構築されていきました。

その後、玩具メーカーの公認もいただき、現在は、この取り組みの視察や講演依頼もあり、平田本町商店街だけでなく、県外の商店街でも同様に取組まれるところが出始めています。

◆◆◆ コラボで地域課題を解決

この事業のもう1つの特長が、他事業とのコラボのしやすさです。今までに、同じく商店街の販売促進事業である「100円商店街」や、異分野では、婚活や医療・福祉、伝統文化のイベントとコラボしました。

また、地域の高校や専門学校、大学の学生とコラボもしています。当日のイベント運営だけでなく、事前に個店を取材して、ゲームの物語を制作したり、店舗出店したりして、商品販売や学校の活動紹介を行っています。

介を行っています。学生が、地域の商店を身近に感じ、店主と親しくなることから、郷土愛も生まれ、定住につながると考えています。

先般は、中京エリアから、「防災をテーマにしたイベントで活用できないか？」との問い合わせもあり、商店街活性化以外にも、地域が抱える様々な課題の解決ツールとして有効であると考えています。

◆◆◆ 子供たちの思い出に

まちあそび人生ゲームは、あくまでもツールです。このイベントを行えば、個店の売上がガンガン上がる、そのようなものではありません。

個店の創意工夫なくしては、販売促進には繋がりません。現在は、ゲームの専用通貨獲得額に応じて商品券に換金する取り組みを行っています。さらに、一過性のイベントにしないため、日ごろの購買活動とゲームの専用通貨をつなげることも考えています。

個店の販売促進は、死活問題であり、個店の存亡は、商店街の死活問題です。ひとつのイベントを販売促進につなげることは、極めて重要なことです。

しかし、そんな直接販売に繋がる話とは別に、地域の子どもたちが、地元の商店街を歩き、店主とおしゃべりし、紙幣のやりとりで一喜一憂する。そんな1日があってもよいのではと感じます。楽しかった記憶の1つに商店街が刻まれることで、またそこへ行きたいと思うことがあるのではないのでしょうか。